

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3292200049		
法人名	社会福祉法人 高田会		
事業所名	グループホーム みのりの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町都万2472-3 (電話) 08512-6-2626		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年8月18日	評価確定日	平成21年9月8日

【情報提供票より】 (21年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 5人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当た		円	

(4) 利用者の概要 (8月7日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 84歳	最低	65歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	隠岐の島町国民健康保険 都万診療所
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設来3年6ヶ月が経過したホームで、利用者は、好きな民謡を楽しんだり、食器の片付けや趣味の手作業など、自分の力を活かしながらゆったりと安心して生活している。職員は、「ゆっくり つれだって いきいきと地域でくらす」支援を合言葉に、日々の暮らしを大切にしたケアを心がけ、細やかな配慮をしながら利用者の生活を支えている。看取りケアの実践など、着実にサービス内容が充実してきている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「地域とのつきあい」「運営推進会議を活かした取り組み」は見直されて成果が出てきている。「家族への報告」「同業者との交流」については今後の課題として継続して取り組まれている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価票を職員全員に配布し、記入してもらい管理者がまとめた。日々のケアを振り返る機会になったが、職員全員で課題を共有し改善に取り組むまでには至っていない。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの活動報告、利用者の状況、外部評価結果などを報告し、それをもとに意見交換をしている。出席者の協力によりボランティアが訪問するようになるなど、討議内容が運営に活かされている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 訪問時や、遠方の家族には電話で意見を聞くことに努め、外部の相談窓口も利用できることを説明している。家族からの意見が少なく運営に反映するまでには至らない。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の文化祭に利用者の作品を展示したり、行事や産直市に出かけ交流に努めている。法人施設内の行事を通し地域の人と交流したり、中学生やボランティアとの交流も広がっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を全職員で話し合い、具体的でわかりやすい言葉で作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は理念を理解し、日々のケアの中に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の祭りや産直市、文化祭、法人行事などを通し交流に努めている。近所の人に誘われびわなどを採りに行くこともある。中学生やボランティアとの交流も広がってきている。	○	継続してホームとしてできることを探り、交流が発展することを期待する。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価票に記入し管理者がまとめた。外部評価結果は運営推進会議で話し合い改善に取り組んでいる。	○	さらに、サービスの質の向上のために、全職員で課題を共有し改善していく取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、利用者の状況、外部評価結果などを話しあい、意見交換をしている。話し合いからボランティアとの交流が始まるなど、意見が運営やケアに活かされている。	○	議題によっては、多様な分野の人にも参加してもらえるような工夫を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の指定管理者制度で運営されているホームで、日常的に相談や意見交換などの連携を図り共にサービスの向上に努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や、遠方の家族には電話で報告している。定期的に発行される法人の便りにホームでの様子を載せ、一緒に写真や手紙を送っている。	○	ホーム独自の便りの発行が考えられているので、是非実現させていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見が言いやすいように和やかな雰囲気作りを心がけ、訪問時や電話で要望や意見を聞いている。	○	家族同士の交流の機会を設け、家族が積極的に運営に参加できるような工夫を検討していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員には一定期間先輩職員がついて指導している。職員は地域出身で気心もわかり、関係も良好である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で人材育成を目的として研修が行われ全員参加している。管理者は外部研修に職員を出るだけ参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は地区の老人福祉施設研究協議会や関連の研修会などに参加し質の向上に努めている。利用者と共に他のグループホームを訪問することもある。	○	同業者間の交流が考えられているので、実現に向けた取り組みに期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人や家族に見学に来てもらい、雰囲気馴染んでもらってからサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	方言や昔話、おはぎやお餅作りなど、毎日の活動や会話の中で利用者からいろいろなことを教わっている。互いにねぎらいや感謝の言葉をかけあう関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に活動し会話や表情から本人の思いの把握に努めている。運営推進会議の委員にサービス満足度調査の聞き取りをしてもらい、利用者の思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見・要望を確認しながら、職員会議で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヶ月に一回、職員会議で話し合い計画の見直しをしている。変化があれば随時対応できるよう柔軟に計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や墓参り、家の様子見、外泊など、一人ひとりの要望に柔軟に対応している。医療連携体制加算をとり、利用者の健康管理をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。協力診療所の医師とは日頃から何でも相談できる関係ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の依頼により終末期の看取りを行った。重度化・終末期に向けて最良な支援が出来るよう、家族、主治医、職員、関係者等が相談しながら対応しようと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	着替えやトイレの時には居室の戸を閉めるなど、職員は利用者の尊厳を大切に声かけや対応を心がけている。歯磨きや手洗い、トイレの誘導も丁寧な言葉かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴など、利用者のペースを尊重した支援をしている。利用者は民謡を聞いた居室で過ごしたり、自分のペースで生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に採ったフキ・筍などを調理したり、盛り付けやテーブルふき、後片付けなど、利用者の力を活かしている。職員も同じものを食べる機会を増やしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や回数など、利用者の希望や状況に合わせて支援している。嫌いな方には様子を見ながら声かけや雰囲気作りを行い柔軟に支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ゴミ出し、洗濯物たたみ、食事の準備など、利用者の力を活かす場面作りをしている。民謡を楽しんだり折り紙を楽しむ人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや買い物、散歩など、利用者の希望に沿った支援をしている。外出を好まない利用者にもバーベキューに誘うなど、外気に触れる機会をつくっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけないケアを心がけているが、職員数が少なく見守りのできない入浴の時間帯に一時鍵をかけることもある。	○	鍵をかけないための取り組みの工夫と、早急な職員確保を願う。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し利用者とともに避難・通報訓練を実施している。備蓄も準備され、法人や近くの商店とも連携が図られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取を記録し、全職員が情報を共有している。摂取量の少ない人には好みの食品で対応している。法人の管理栄養士から定期的に専門的アドバイスをもらっている。		
し					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファがあちこちに置いてあり利用者は思い思いの場で過ごすことができる。、金魚や花、手作りの作品などを飾り、落ち着いた空間作りをしている。室温や日差しにも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には屋号も表示し、使い慣れた家具や神棚、冷蔵庫、観葉植物、家族の写真等を持ち込んだり自分の作品を飾り、生活スタイルに合わせた居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。